

今月の一枚



順慶寺に残る勤行本の版木（順慶寺本堂にて）

◆◆ 勤行本 ◆◆

古来、本堂で大法要を勤めるときには、助音講を中心に勤行本を使ってお勤めをしてきた。今も助音講には、『大谷声明集』が寺から支給され、毎月お勤めの練習をしている。写真は、江戸時代の勤行本の版木。江戸時代、助音の方には手作業で印刷して製本したものを手渡した。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2022年(令和4年)

7月号
VOL.345

◇ 流されずに生きること ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「花の香りは風に逆らっては行かない、
梅檀も伽羅も茉莉花の香りも。」

しかし、良い人の香りは風に逆らっても行く、
善人は、すべての方向に香りを放つ。

(第五十四偈)

梅檀や伽羅、はたまた青蓮華やジャスミンと、
これらの香りのある素のうち、

戒を具えた人の発する香りはこの上ない

(第五十五偈)

からの引用です。

今月のところは、多聞第一として、釈尊にいつも付き従った、阿難(アーナンダ)が、美しいものや素晴らしい香りは、風によって流されていくが、自分もつい流されていくがそれで良いのだろうかとか心配になり、釈尊に質問したことに対する、釈尊のお答えです。

出家し華やかなことから離れたものには、世間の華々しさが目に映ることはないはず。しかし、なかなかサトリに行き着くことのでき

今月の釈尊の言葉



花の香は風に逆らわず
善き人の香は
あらゆる方位に薫る

◆ダンマパダ(法句経)
第五十四偈より

弟子の阿難が、釈尊に、流れに逆らっても芳しく香るものがあるだろうかとか尋ねた一節。



若院のテーマカット NO.39



ない阿難は世間の華やかさに流されるばかりでした。苦しい胸の内を打ち明ける阿難に対して、釈尊は、

「殺生から、与えられないものを盗ることから、愛欲による間違った行為から、虚言から、穀物酒・果実酒による放逸から遠ざかり、戒を守り、善い法に従って汚れと慳貪がなくなっただ心によって暮らす人があります。喜捨を喜び、布施を分け与えるもの、そのような人ならあらゆるところにまします修行者や婆羅門たちが称讃を述べます」

といい、善きことをする人は、あらゆるとこ

ろでほめ讃えられますと勇気づけました。

◇善きことは讃えられる◇

浄土宗の開祖法然上人。どんな人でもただ念仏することで救われると、専修念仏を説かれました。菩提心を得て修行をすることで救われると言われた当時、革命的な教えでした。

法然上人の回心は四十三歳のとき。善導大師の『観經疏』の一節に出遇われ、一心にお念仏を称えれば誰もが必ず救われることを確信。以降、日課六万遍といわれほどお念仏のみを称える専修念仏の道に入られました。法然上人に教えを請う人は多く、関白・九条兼実、熊谷二郎直実をはじめ、権力者や武士、僧侶や民衆が集まりました。ことに熊谷二郎直実の苦悶は、激しいものがありました。一ノ谷の戦いで、

①【阿難】

釈尊の十大弟子の一人。釈尊の従弟といわれ、晩年の釈尊に侍者として二十五年間仕え、説法を聞くことが多く、「多聞第一」といわれる。数千語に及ぶ釈尊の説法を一語も間違えずに復誦することができたという。また、釈尊の乳母と阿難の取りなしにより、女性出家の教団の手助けをした。釈尊の生前にはついに悟りを得ることができず、釈尊入滅後、マガダ国の王舎城で

歴戦の勇士・直実と平家の若武者だった平敦盛が一騎打ちとなり、敦盛が落馬。敦盛の兜をとってとどめを刺そうとすると、自分の子供と同じ年回り。逃してやろうとしましたが、味方がやって来たため、やむなくとどめを刺しました。敦盛の腰を見ると、昨日聴いた笛がさしてあったという、『平家物語』の一節は有名です。その後、苦悶した直実は、法然上人のもとを訪ねます。

そのとき、法然上人から授けられたのが念仏して生きていく道でした。その後、直実は、敦盛の遺族とも面会を果たし、遺品を手渡すことになりました。直実を怨み返還を拒む遺族に対して、法然上人が、「直実だったからこそ、戦場から遺品を持ってきたのです」と諭したといえます。

逆風の中でも、徳を讃えることはこのことを言うのでしよう。

②【熊谷 郎直実】

行われた第一回結集（お経の編纂）において悟りを開き、経蔵をまとめるのに貢献した。（『日本大百科全書』より）平安時代末期から鎌倉時代初期の武将。武蔵国熊谷郷（現埼玉県熊谷市）を本拠地とした、熊谷直貞の次男。はじめ平家に仕えていたが、石橋山の戦いを契機として源頼朝に臣従し御家人となる。のちに出家して法然の門徒となり蓮生と号した。（WIKIPEDIAより）

念仏を欲ぶ人 妙好人の世界

[第118回]

《味おうてくれ》
ものだね きちべえ
物種 吉兵衛
(26)

《さあ、もう帰りましょう》

堺の妙好人・吉兵衛。生涯聞法を続け、多くの人と仏法について語りあつたため、多くの同行から一目おかれる存在となりました。

ある日、日々聞法を続けていた泉尾新田の嘉助という同行が吉兵衛に会いたいというので、さっそく嘉助のお宅へ善兵衛という同行が吉兵衛を案内することになりました。

善兵衛と吉兵衛が嘉助のお宅につき、門口に入ると、待ちかねていた嘉助が出迎えて、

「善兵衛さん、よう来てくれました。今度はお浄土にまいらせてもらいますわい。」

と挨拶しました。吉兵衛は、傍らでそれを聞いて、

「善兵衛さん、ようつれて来てくれた。お浄土へ帰って下さるお方に対面させてくれた。こういう方のお家のお庭を踏ませて貰うだけでもエライことや。さあ、もう帰りましょう。」

と言って、そそくさと庭から出て帰ってしまいました。

後日、失礼なことになったと思ひ、善兵衛が嘉助を訪ねると、

「いやいや、申ししたことがはげれしもうた（自分の化けの皮が剥がれた）」

と言って、大いに反省していたといひます。

吉兵衛の聞き鋭さが、嘉助を導いた一幕でした。

《第二十七回 御文さま》

月参りや七日参りの際、一番最後に拝読させていただいたのが御文です。その文章は蓮如上人の生きた時代にはわかりやすい言葉であった、と教えてもらいました。

私自身、御文は古くて頭に入りにくい文章だと無意識

に思っていたので、ただなんとなく拝読するだけではダメだとされているような気がしました。

蓮如上人の御文に何を学ぶのか、そういう視点で拝読する意識が欠けていたなど反省しています。

お寺とともに

一足の靴

先日、本堂での法事で、お祖父ちゃんに手を引かれて元気よくお手洗いに入っていく、可愛い兄弟を見かけました。

本堂には法事に参詣される沢山の皆さんが来られていましたので、皆様に挨拶をしたりしていると、先ほどのお子さんたちがトイレから出てきて、きちんとスリッパを揃えているのが目に入りました。

「わあ、エライね！」

と、思わず感動してしまいました。小さな子供たちの仕草に見とれながら、今更ながら「うちの子供たちはすっかり大きくなったけど、よそで無礼をしていなか」と心配な気持ちになりました。

その後、本堂の前を通りかかると、兄弟の小さな靴が正面に二足揃えてありました。礼儀正しい子供たちの姿に、夏の暑さを忘れ清まし気持ちになりました。



再掲

法事等の本堂使用マニュアル



ホームページにも掲載中

コロナ禍の影響で、法事等で本堂を使用したいとの要望が多くなってきました。令和元年に護寺会員に通知した「法事等における本堂の使用について」を当紙面で再掲いたします。本堂で法事等を催される場合は、十分配慮して御予定ください。

《本堂の法事等使用における注意点》

1、法事等は、自宅の御内仏で執り行うことが基本ですが、護寺会員に限り本堂の使用が許可されます。

2、本堂で執り行う場合も、自宅で執り行う法要と同じ心構えが必要です。法要の準備、お客様の接待などは、必ず施主が行ってください。

3、エアコンなどの空調、荘厳（仏華線香、ローソク、お仏供等）に関するものは護寺会で負担します。

《法要前日まで》

1、順慶寺に法要の申込をしてください。その際、法要の内容（年回法要の当たり、祥月、志など）、僧侶の人数（役僧の有無）、当日の参詣人数をお知らせください。

2、当日に必要なものを準備ください。

(1) 茶葉、お菓子、その他接待に必要なと思われるものをご準備下さい。但し、湯飲み、菓子器、お湯

冷蔵庫は寺で準備があります。

(2) お齋 施主で御予定ください。

(3) お引き 施主で御準備ください。

(4) お供え 本堂の御本尊様にあげられるお華束（お供え）をご準備ください。お華束には、お餅（7cmほどの大きさ）を20個ご準備ください。（上用饅頭などの菓子類は使えません。）

※お餅は、法要終了後、参詣された方にお下がりとして配布してください。

《法要当日》

1、念珠、該当者の法名等必要なものを忘れずに持参ください。

※但し会場費、施設利用料はいりません。

2、施主は法要開始30分前には順慶寺にお越しください。参詣者のイス、茶菓振る舞い（南落間で接待）などの準備をしていただきます。その際、施主は、本堂に参詣する服装をし、肩衣のある方は着用してください。

3、法要開始までに、僧侶にお華束となるお餅を手渡ししてください。

4、法要でのお焼香は、読経中に行います。僧侶の指示に従ってください。

5、法要終了後、イスの片付け、湯飲み等の現状復帰をしてください。お華束、お供えなどを参詣者に配布してください。

6、すべて終了したら、お齋をされる前に片付けが終わったことを寺のものにお知らせください。以上

お見事・ハナショウブ

さる、5月27日、山ノ端組の鈴木市成さんご夫妻が、順慶寺庫裏玄関に、ハナショウブを二鉢届けて下さいました。お花は、ご自宅で育てて下さり、見頃を迎えたころに、重い鉢を順慶寺に運んで下さいました。



鈴木市成夫妻さんによるハナショウブ(庫裏前にて)

6月度護寺会物故者

浄香院釋尼妙富

5月31日寂 小松富子(93)

名古屋市 小松俊哉様の母

清綾院釋尼美香

6月22日寂 池田みち子(91)

山ノ端組 池田康志様の母

常歓院釋尼妙兼

6月6日寂 志水かねを(103)

落合組 志水謙三様の母

3名の順慶寺護寺会員の方が生前の役割を終えられ、浄土におかえりになりました。合掌

編集部短信

◆ハクビシンのシミ落とし完了ー6月16日、庫裏書院廊下に見つかったハクビシンによる天井の汚れ除去が業者によって完了した。ハクビシンの営巣が確認されたから、およそ二ヶ月ではば営巣前の現況復帰となった。



汚れ除去前の玄関通路天井

編集雑記

市の近藤商会によって実施。消防設備の定期点検は、半年に一度実施されている。

6月、地域の一人暮らしのお年寄りが孤立しないよう地域ボランティアによって地域ぐるみで活動されている「いずみの会」でお話をさせていた。多く機会がありました。集まった皆さんは、この人もあの人もお寺と縁のある方がたくさんでした。多くの皆さんがつながりを作って楽しそうにされているの知り、改めて勉強をさせていただきました。(住)

◆同朋講座でリモート席設置ー6月15日、岡崎教区21組の同朋講座で初めてリモート配信によるリモート席を設置した。リモート設備のノウハウは、コロナ禍で順慶寺にて実証済みの技術をつかった。

◆消防設備定期点検ー6月27日、順慶寺の消防施設の定期点検が岡崎

最近、妹に痩せたと言われました。大学に進学してから、あまり体を動かしていないという自覚があったのですが、とうとう目に見えてわかるぐらいに筋肉が減ってきた様です。やはり健康の為に運動するべきでしょうか。(若)



7月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	金	寺カフェ (9:00~12:00、順慶寺本堂南落間にて)	
2	土	 <p>「寺カフェ」 ★毎月1日 オープン 午前9~12時 ★順慶寺：南落間とその周辺 ★コーヒー、紅茶、ジュース</p>	
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		富士松真宗教団夏期講座(9:30、今川町・乗蓮寺)
8	金		
9	土	助音講(19:00、順慶寺本堂)	
10	日		
11	月		
12	火		
13	水		
14	木		木-2
15	金	責役総代会(17:00、順慶寺本堂)	

16	土	順慶寺こどもかい(9:00、順慶寺本堂)	
17	日		
18	月	真宗講座(19:00、順慶寺本堂)	
19	火		
20	水	教化委員会(14:00、順慶寺本堂)	
21	木		木-3
22	金		
23	土		
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	木-4
29	金		
30	土		
31	日		

7月行事内容 詳細

富士松真宗教団 夏期講座

7月7日(木)

午前9時半〜 今川町乗蓮寺
講師 平原晃宗氏

富士松地区の真宗寺院八ヶ寺合同で行う夏期講座が開催されます。例年、地域同行を中心に開催されていきましたが、本年からは、一般に公開講座として開催します。

講師には、京都より大谷高校の宗教科教諭である、平原晃宗氏を迎えます。平原氏は、住職の後輩にあたり現在活躍中の先生です。本年の参加費は無料です。是非ご参加ください。

上半期・教化委員会

7月20日(水)

令和四年度、順慶寺の諸活動はコロナの感染状況に配慮しながら、寺カフェ、子ども会の発足をはじめ、例会、各講座なども活動を再開させています。

こうした状況を踏まえ、これまでの活動を検証し、今後の活動に対して意見を交換するため、賛助会役員、護寺会四役等で構成する、教化委員会を開催します。

お知らせ

●7月も寺カフェ開催

5月にオープンした寺カフェ。これまでのところ、毎回四十名ほどのお客さんが来られ、寺でのコミュニケーションに花を咲かせています。7月も1日午前9時から開催されます。大勢の皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

●護寺会費未納の方はお早めに

順慶寺護寺会では、5月末日までに護寺会費の納入をお

願っております。6月末日現在未納の方が若干あります。コンビニでの納入は、6月末が期限となりますので、未納の方はお早めに納入ください。

●公開講座に東大の牧野先生

10月に開催予定の順慶寺公開講座ですが、今年は、教化検討委員会でもアドバイザーを務めて下さった、東京大学大学院教授・牧野篤先生を講師に迎え開催されることとなりました。

じゅんこのときめき歳時記

土用しじみ

みなさん、7月になると鬱陶しい梅雨もわり、いよいよ夏本番ですね。このごろは、夏の暑さが特別なので、夏負けしないように心がけないといけません。

夏の土用の意味はご存知でしょうか。土用とは、四立(立春、立夏、立秋、立冬)の直前の約十八日間のことを言い、この期間中の丑の日は全て「土用の丑の日」となるそうです。ですから、土用の丑とは、夏に限りませんが、夏の土用は、特に暑いので、栄養をつける意味でウナギを食べる習慣ができたようです。ところで、古くから夏の土用の丑

にシジミを食べる習慣があるそうです。実はウナギの旬は秋以降ですが、シジミは夏に旬を迎えて栄養満点だからだと聞きました。

人々に

土用蛸のよろこばる

青山友枝

